（様式１）

県立太田西山高等学校【総合的な探究の時間の全体計画】（令和７年度）

総合的な探究の時間の第１の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

1 人間力を高め、将来の夢を実現する学校
2 知・徳・体の調和のとれた、心身ともに健全な人格の完成を目指す学校
3 自ら学び続ける力の育成を目指す学校
4 地域に愛され、信頼される学校

各学校で定める目標と育成する資質・能力

１学年
(1) 地域の実情や課題についてデータ等に基づいて知識を深める。
(2) 課題の背景や将来の影響等について適切に把握し、解決策を考える力を身に付ける。
(3) 生活をしていく上で、課題を適切に把握し課題を解決する能力やコミュニケーション能力を活用し協働して取り組む力を身に付ける。

２学年（ライフスキルⅡ）
(1) ライフスキルⅠを発展させ、コミュニケーション能力を高め、自分の感情をコントロールする能力や他者を理解し自分の考えを伝える能力、他者と協働して課題の解決に取り組む能力を養う。

３学年（ライフスキルⅢ）
(1) 生徒の人間力の育成に向けて、コミュニケーション能力を高め、社会性を育成し、主体的に学ぶ姿勢を育成することで、ライフスキルの発展的内容を身につけた人材の育成を図る。

総合的な探究の時間の学習評価

(1) ワークシートやふり返りシート、講義の後の感想文等での学習過程における取組状況から関心や意欲、知識や理解について評価を実施する。
(2) 課題への取り組み、グループでの話合いの様子から意欲や態度、判断力を評価する。
(3) レポートの作成や発表で、思考力・表現力や学びに向かう姿勢、持続可能な解決策か評価し、指導内容や指導方法の改善を実施する。

生徒の実態

素直で落ち着いた性格の生徒が多い。しかし、控えめで積極性に欠ける面が見られる。
また、進路希望は地元志向が強く、県内の進学、就職に偏る傾向がある。
学校全体として学力差が大きく、進路に関する意識の差も大きいなどさまざまな面で多様な生徒が学んでいる。

生徒の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする生徒への指導

どんな支援が必要であるか生徒理解に努めると同時に、妥当性のある指導を十分に見極め、学年や学校全体で柔軟な教育措置を行っていく。
自己肯定感を高め、主体性を身につけさせることで、配慮を必要とする生徒が阻害されない環境作りにも努める。

目指す生徒の姿

(1) 自分の在り方や生き方を考え、自ら進路を実現していく生徒。
(2) 物事や課題を主体的に発見し考え、コミュニケーション能力を生かし、他者と認め合いながら協働して課題を解決できる生徒。
(3) 持続的に地域社会を支え、地域社会に貢献できる生徒。

各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力

１学年
少子化について考える
(1) 地域社会の少子化の実情をデータ等に基づいて理解し、その背景や影響を考察する。
(2) 地域社会の実情に合った解決に向けた持続的な取組を主体的に考え、他者とコミュニケーションを図りながらとりまとめていく。
(3) 課題の解決に向けた取り組み方を将来に生かし、地域の課題を適切にとらえ地域社会に貢献できる人材を育成する。

２学年
ライフスキルⅡ
コミュニケーション能力を高め、社会性を育成し、ライフスキルの応用内容を身に付けた地域社会に貢献できる人材を育成する。

３学年
ライフスキルⅢ
ライフスキルの授業で身につけた能力を自己啓発に結びつけ、その力を十分に発揮でき、社会で活躍できる人材を育成する。

学習活動、指導方法等

１学年
(1) 「茨城の魅力」の理解
地域社会の伝統や文化を認識させる。そして、地域社会の維持が少子化の影響で厳しい状況になっていることを理解する。
(2) 少子化の影響と持続可能な解決の方法を考える
ア 地域の統計等を活用し少子化の実情を把握する。また、少子化の背景と影響を考えレポートにまとめる。その後、グループで背景や影響を話し合い、各グループが発表をおこなう。
イ 地元地方公共団体担当者から少子化の現状と背景について講演を聴く。
ウ 地元の保育所等でボランティア体験を実施し、子どもとふれあう。
エ 具体的でかつ持続的な少子化の解決策を考える。各自の考えをもとにグループで少子化の解決策を話し合い、まとめる。その後、グループで発表しあい、解決の方法を共有化する。
オ 地元地方公共団体の少子化担当者を招き、各クラスの代表グループが少子化の解決の方法を発表する。

２学年
ライフスキルⅡ
ライフスキル教育プログラムと自校作成教材の自己啓発スキル等の活用。

３学年
ライフスキルⅢ
ライフスキル教育プログラムと自校作成教材の自己啓発スキル等の活用。

指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

(1) 校内委員会等
道徳委員会とライフスキル推進委員会の合同委員会：2つの委員会が合同で基本な計画や日程を立案。1学年は学年主任を中心に事業を推進。2、3学年は学年のライフスキル担当と学年主任を中心に推進。
(2) 担当者会議：道徳教育担当者(各クラス副担任)会議を毎週水曜日の放課後、ライフスキルⅡ・Ⅲ担当者(各クラス担任)会議を毎週木曜日の放課後に実施。
(3) 地域等との連携：地元地方公共団体(少子化担当・子ども福祉担当)、地元企業人、大学・専門学校等の外部関係者と連携。